

# 木

KINO PRESS  
NO.41

# 野

京都精華大学  
KYOTO  
SEIKA  
UNIVERSITY

# 通

木野通信 第41号 2006年1月23日発行  
京都精華大学企画室  
〒606-8588  
京都府左京区岩倉木野町137  
TEL. 075-702-5201

# 信

## 京都精華大学の新しい姿

学長◎中尾ハジメ NAKAO Hajime

京都精華大学は、これまで人文学部と芸術学部の2学部体制でしたが、4学部からなる大学として再出発することになりました。新設のデザイン学部とマンガ学部は、いよいよこの4月から、第一期の入学生を迎えます。

デザインの領域とマンガの領域が、芸術学部内の学科・分野であったことから発展し、新たに独立したのですが、これまでの教育課程の考え方や内容が、ただそのまま引き延ばされ、大きく変わったわけではありません。

大学におけるデザインとマンガの教育がそれぞれ、時代の変化、社会の変化に対応して展開するために、より包括的に、より柔軟に、より実践的になることができるよう、自らの姿を変えることがひとつの

## 2学部の大学から4学部の大学へ

目標でした。なによりも、現実社会のなかで急速に変貌しつつあるデザインやマンガの最前線を大学教育のなかにバランスよく取り込むことができるよう、教育課程の再構築を行い、学生が多数の経験豊富なプロフェッショナルから学ぶことができるようにしたのです。

もちろん芸術学部も造形学科・素材表現学科・メディア造形学科に再編され、芸術表現へと向かう学部としての特徴を強化しました。人文学部も、この春には社会メディア学科と文化表現学科が4年目を迎えます、3学科体制が完成します。そして、このような4学部によって大学が構成されることになったのです。

この学部増設で1学年の学生数が約2000人つつ増えることになり、4年後には全学で4600人を超える規模の大学となる計画です。そ



「セレナーテ」 小林 亜希 203MC01

のために、これまでにない20メートルの高さの学舎を建てるなど、キャンパス施設の整備を鋭意進めているのは誰の目にも明らかでしょう。たしかに私たちの大学は、短期大学として開学した当時は500人規模だったのが現時点で3800人規模なので、これから、短期大学のとなく定員数を増やし続けてきたのです。しかしそれは、短期大学の英語英文科と美術科、そしてその延長上にあった人文学部と芸術学部という2学部体制でのことでした。

今回の4学部体制のインパクトは、誰も経験したことのない異質なものと一言しなければなりません。京都精華大学は、独立した4学部それぞれが、その特色を強力に発揮し競いあう、新しい大学として、文字どおり再出発するのです。

NEWS

# デザイン学部・マンガ学部の開設が認可

2006年4月に芸術3学部体制がスタート

京都精華大学の2006年度におけるデザイン学部、マンガ学部、および芸術学部素材表現学科・メディア造形学科の設置が2005年7月27日、文部科学省へ届出され、受理された。一方、これら学部学科新設にともなう収容定員の増加については、認可申請を行っていたところ、9月30日に文部科学大臣より認可を受けた。

これにより、2006年度からの新学部新学科の設置が正式に決定した。現在、4月のスタートを目前に、施設整備や授業の準備が

進んでいる。

今回の新学部開設では、これまでの芸術学部に含まれていた芸術の諸領域をファインアート、デザイン、マンガという3つの軸のもとに再編し、各領域が専門性を深めることにより、最大限に特色を発揮することが期待される。

また日本初となるマンガ学部の開設は、すでに多方面の注目を集め、マスコミ各社からの問合せが相次いでいる。

## 公募制推薦入試実施

2005年11月、新学部開設・再編をひかえた初の入学試験となる、公募制推薦入試試験が、新学部開設により大きく拡大した受験会場で行われた。

芸術・デザイン・マンガの3学部の総受験者数は、2870名。これは、昨年の芸術学部公募制推薦入試の約2.6倍となる。各学部の受験倍率も、芸術4.6倍、デザイン9.4倍、マンガ4.1倍と、軒並み好調である。

NEWS

## 表現研究機構初の合同シンポジウム開催

4年半の活動を総括、合同研究への布石に

「文字文明研究所」、「マンガ文化研究所」、「映像メディア研究所」の表現研究機構3研究所が、開設以来初めてとなる合同シンポジウムを行った。

表現研究機構は本学の研究機関として2001年の開設以来4年半にわたり、本学ならではの先鋭的な研究活動を展開してきた。

今回のシンポジウムは、それぞれの研究分野で一定の研究成果を上げてきた3研究所がこれまでの活動を総括するとともに、合同研究への布石とすることを目標に計画された。3研究所に共通するテーマである「表現」を軸に、多角的な視点からのアプローチを試みた。

開催日は2005年9月29日。本学キヤンパス内の会場に本学教職員・学生、学外から80余名の参加者が集まった。

前国際日本文化センター所長で宗教学者の山折哲雄氏を迎えての基調講演「私がマンガ『親鸞』を著した理由」では、「表現」のさまざまな形態が、マンガや日本の古典芸能の例をもとに多角的な切り口で語られた。続いて後半は「文字文明研究所」(マンガ文化研究所)へ映像メディア研究所の3研究所長をまじえてのパネルディスカッションが行われた。活発に議論が交わされ、今後の同機構の取り組むべき課題も明確になった。また、シンポジウムの会場では3研究所の研究



活動が成果物の展示や映像上映などさまざまな形で紹介され注目を集めていた。表現研究機構では、シンポジウムの結果を受け、より開かれたオープン・リサーチ・センターとして研究テーマの深化・実質化をはかるため、新たな研究員の導入や第2期の研究活動基調方針の策定などの検討を開始。より柔軟で横断的な組織への改編を進めている。

NEWS

## マンガミュージアム記念フォーラム

マンガミュージアムの担う大きな役割に期待

京都精華大学と京都市との共同事業「京都国際マンガミュージアム(仮称)」の役割を採るフォーラムが、2005年12月17日、開予定地の京都市中京区・旧龍池小学校の講堂で開かれ、京都市や本学関係者らが市民を前に意見交換した。



マンガミュージアムは国内初のマンガ博物館として今秋開設する。マンガや関連資料約20万点を収蔵するほか、マンガ

やアニメにかかわる人材を育成し、新たな文化発信を目指す。

フォーラムでは、本学中尾ハジメ学長や星川茂一京都市副市長らがパネル討論を行い、「大学の個性を活かして地域に貢献する」「観光客を誘致する」等、ミュージアムへの期待を述べた。河合雄雄文化庁長官や、アニメ映画監督で今春から本学に就任予定の杉井ギサプロ氏も講演を行い、文化復興の可能性やアニメとマンガの産業化などについて語り、マンガミュージアムへの持つ役割に大きな期待が寄せられた。

NEWS

## 日仏アニメーションの交流イベント

映像上映に加え講演や対談も。作家同士の交流も深まった

アニメ先進国である日本と、芸術性の高さで定評があるフランスのアニメーションの交流イベント「日仏アニメーションの出会い」が2005年10月6日から9日まで本学の明窓館で開催された。

イベントは関西日仏学館との共催。『ギリクと魔女』で知られるミシェル・オスロ監督の最新作をはじめ、ルネ・ラルーの名作『ファンタスティック・プラネット』、フランス・ニールセン『犬と将軍と鳥たち』など普段観る機会が少ないフランスの秀作アニメーションのほか、杉井ギサプロ監督(本学マンガ学部アニメーション学科教員就任予定)の『銀河鉄道の夜』や、りんたろう監督(同客員教授就任予定)の『メトロポリス』が上映さ

れた。また、パリのゴブラン映像高等学校の学生作品も上映され、本学在学学生を中心とした参加者らはそのレベルの高いアニメーションに見入っていた。上映会のほかにもシンポジウムや監督同士の対談、講演も行われ、イベント終了後には監督らへの質問や、サインを求める人垣ができた。

日本とフランスのアニメーションのトップクリエイターらが集う貴重な機会となった今回のイベントは、多様な企画が展開され、監督同士や学生らとの交流の機会も多く、内容の濃い4日間となった。



NEWS

## デザイン学科でコンペティション

イタリアのテーブルウェアメーカーの公開審査会が行われた

イタリアのテーブルウェアメーカーEos(イーソー)社が本学学生を対象としたテーブルウェアのコンペティション(公開審査会)を、風光館にて開催した。イタリアの有名な雑貨メーカーであるイーソー社が、新しい商品開発のためのコンペを日本の大学で行うことは異例と言える。

公開審査会には、イーソー社長をはじめ、この企画を本学へ提案したイタリアのEM協会のスタッフらも参加した。デザイン学科の学生を中心に、食器や花瓶など、約40点のテーブルウェアが制作者よりプレゼンテーションされ、その柔軟な発想をとり入れた作品に、驚きの声や質問、アドバイスが行き交った。

発表した作品のうち6点が社長の目にとまり、商品化を検討するため、イーソー社によって試作が作成されることとなった。それらのプロトタイプは、今年春のイタリアでのテーブルウェア展示会へ出品される予定。展示会での評価が高ければ、その商品化やデザインナーとしての契約も十分考えられる。

また本学での公開審査会の継続開催も検討されており、大きなプロジェクトへと発展しそである。



NEWS

## 在学生と卒業生の交流会を実施

学生自治会執行部と木野会による共催で

2005年12月11日、在学生と卒業生の交流会「せいかだいすきはなさんかい」が比叡山にある本学の表現研究機構の施設・叡山閣を会場に開催された。この交流会は、多くの先輩から話を聞きたいという在学生の要望をもとに学生自治会執行部と同窓会木野会の共催したもので、在学生45名、卒業生35名が集った。

プログラムは会場となった表現研究機構の紹介から始まり、卒業生をパネラーとしたパネルディスカッション、グループミーティ

ング、懇親会が行われ、卒業生らの社会での経験など多方面での蓄積をもとに、在学生らと率直な話し合いが行われ、親睦が深められた。在学生、卒業生両方にとって有意義な会となり、定期的な開催を望む声を聞きながら解散となった。



# デザイン学部・マンガ学部 教員紹介

2006年4月、京都精華大学にデザイン学部とマンガ学部が誕生する。これまでのデザイン学科・マンガ学科の教員に加え、新たに活躍中のデザイナーや作家・プロデューサーらを教員として迎え入れ、大学でプロの現場を経験できることになる。

## デザイン学部

### ビジュアルデザイン学科

#### 「グラフィックデザインコース」

角谷和好（2008年就任予定）  
教授／株式会社代表取締役、カタログやポスター、カレンダー、SPツール、PR誌、社内報などの企画デザインを手がける。カタログやPR誌で受賞多数。  
高橋亨  
助教授／グラフィックデザイナー、アートディレクター。画像処理技術ほか、DTPソフトや文字組版アプリケーションの開発やコンサルティングに携わる。  
豊永政史  
助教授／美術館や現代美術作家とのコラボレーションワークを主な領域とし、写真撮影、ポスターデザイン、空間デザインなどを手がける。作品集等の編集も行う。

#### 「イラストレーションコース」

鳥海修（2007年就任予定）  
教授／有限会社字海工房代表取締役であり書体設計士。ヒラギノシリーズ、游書体ライブラリーなどの多くのデジタルフォント制作を手がける。  
大高都子  
助教授／奥村昭夫氏の下でパッケージデザインに関わったフリーのイラストレーターとして活躍。NHK出版マガジンハウス、講談社などの本の装幀面多数。  
川添貴  
助教授／バルコ、日産、資生堂等の企業のキャンペーン広告や、エディトリアルデザインに携わる。六本木ヒルズ公式ガイドブックやAriou田等のアートディレクションも。  
中尾博（2008年就任予定）  
教授／企業、団体のパッケージデザインおよびグラフィック業務に携わり、幅広いメディアのトータルコンテンツ構築を行っている。グラフィックデザイン関係の受賞多数。

#### 「デジタルクリエイションコース」

大下大介  
講師／映画、演劇、TVの現場制作を経て映像製作会社へ。グラフィック、Web、企業CI、映像、テキスト、舞台美術の制作・プロデュースなど活動は多岐に渡る。  
森原規行  
講師／デジタルコンテンツプロデューサー。Webやケータイ、テレビ、映像などのコンテンツの企画・制作のほか、クリエイターやキャラクターのマネジメントも手がける。

#### 浅葉克己

客員教授／アートディレクター。日本の広告の歴史に残るテレビCMやポスター作品を数多く手がけている。文字と視覚表現のかわり追求。グラフィック関係の受賞多数。  
タナカカツキ  
客員教授／マンガ家、映像作家、マンガ（バカドリル）「オーストロンちゃん」、映像作品集「SUNDAY」ほか、CM、CGアニメの映像制作など多様な作品を発表している。

#### 山本容子

客員教授／銅版画家。「JUGMI」や「世界の文学」全集など書籍の装丁・挿画のほか、アクセサリーや食器、舞台衣装、CD制作まで幅広いメディアで活躍。  
茶谷文子  
講師／松下電工にてパーソナル機器商品デザインを担当。98年退職と同時に、ai design studioを設立。カラーデザインを中心に活動中。

#### 吉田 治英

教授／株式会社G京都、取締役社長。松下電器産業住宅設備機器研究を経て、G京都へ。プロダクトデザインから景观デザイン提案まで幅広い業務に携わる。  
安藤真吾（2008年就任予定）  
教授／株式会社コトコト株式会社、大阪ガス関連会社を経て、97年に安藤デザイン事務所を設立。オフィス空間、商業空間、住空間のデザインを手がける。受賞多数。  
井上斌策  
教授／P・D・I・N・T等業績と著作は国内外誌に多数掲載。通産省Gマーク、公共指名コンペグランプリ等多数。デザイン賞の審査委員も多く務める。

#### 多田 景太

講師／デンマークでロアルド・スティーネン・ハンセン氏に師事。デザイン事務所「ワタシキョウブ」を設立し、家具やインテリアプロダクトのデザインを手がける。  
北條 崇（2007年就任予定）  
講師／松下電工に入社して住宅設備建材、高齢者向け商品、研究所開発テーマ等を担当。Baro design主催、京都の伝統工芸の商品通販サイト「Baro」を運営。  
米本昌史（2007年就任予定）  
講師／dreamscape主宰。TOKYO DESIGNERS BLOCK「House as Furniture 2007」チャリティーフェアニチャー「リウムスケープ・フアニチャー」展など。

#### アウグスト・グリッポ

客員教授／デザインプロデューサー。ミラノのヴィラトラスカデザインマネージメントセンター所長。デザイン、美術、デザインマネージメント関連の研究報告を数多く発表。  
堀木エリ子  
客員教授／和紙アートディレクター。「建築空間に生きる和紙造形の創造をテーマに、和紙インテリアアートの企画・制作から施工まで手がける。

#### 建築学科

「建築コース」  
片木孝治  
講師／SALT DESIGN Architecture Attachment 主宰。日本建築学会設計競技第1部全国1等賞。93年「YU-GO JAPAN」実施ロビー最優秀賞。05年他受賞多数。  
小篠ゆま  
講師／ファッションデザイナー。98年 Yumakosho 98-SHOW DEBUT COLLECTION 発表。和装着物からユニフォームまで幅広く手がける。  
坂本憲子  
講師／鐘紡株式会社チヤンティオール事業部技術部長を経て、株式会社ロジックデザインオフィスにてコレクション・チューエルドレスなどを10年担当。  
辻村久信  
助教授／辻村久信デザイン事務所+Icon Balance。プロダクトデザインから建築まで境界を越えて、日本の伝統の軸線上にあるモダンデザインを創造する。受賞歴多数。  
トム・ダニエル  
講師／ビクトリア大学建築学科を卒業。京都大学大学院工学部修士修了。建築雑誌の編集員を歴任し、地域作りなど広い領域で活躍する。

#### コシノジュンコ

客員教授／ユニフォーム、シボルマークから、家具まで幅広くデザイン。国内外で多種多様なファッションショーを意欲的に継続的にこなしている。  
トム・メイ  
客員教授／71年 Morphosis を設立。S・C・I・A・R・C を協同設立。05年プリッカー賞を受賞。代表作に「ダイヤモンドランチェ・ハイスクール」、ウーインの「ハウジング」等。

#### 学科共通

宮一穂  
教授／中央公論社で中公新書を10年、月刊「中央公論」の編集に17年携わり編集長も務める。その後も書籍の編集に従事。著書に「古典読むべし歴史知るべし」。

#### 佐藤 敬二

教授／漆・木・竹・陶磁器など伝統的素材を使ったインテリアプロダクトの商品企画・デザインや制作等、幅広く手がける。伝統産業関連の著作多数。  
芸術学部からの異動教員  
松谷昌嗣（教授／グラフィックデザイン）、坪内成晃（教授／イラストレーション）、中田希佳（助教授／プロダクトコミュニケーションデザイン）、丸谷彰（教授／プロダクトコミュニケーションデザイン）、大迫克全（助教授／インテリアプロダクトデザイン）、新井 清一（教授／建築、鈴木隆之（助教授／建築、田中 充子（助教授／建築、葉山 勉（助教授／建築、武田 雄二（教授／共通）、佐藤 守弘（講師／共通）

## マンガ学部

### マンガ学科

#### 「ストーリーマンガコース」

板橋しゅうほう  
教授／マンガ家。「スリックスター」『凱羅』『アイシティ』など多くの単行本を発表。「ランニング・ハイ』『サイバーオーグ』等、ゲーム制作にも携わっている。  
萩原 征弥（2007年就任予定）  
講師／フアンタジーの世界でファンを魅了しているマンガ家。「電剣伝説（1）ヴァイルの剣」「電剣伝説（2）古き民の魔術師」「電剣伝説（3）竜の娘」など。  
齋藤 なすな  
助教授／イラストレーター、マンガ家。「恋愛列伝」「千年の夢」「鳥獣草魚」など。Webや携帯上でマンガ制作など新しい可能性も探り続けている。さそうあきら  
助教授／マンガ家、文化庁メディア芸術祭賞の「神童」をはじめ、テレビドラマ化された「トの世界」、『ドモのゴッドモ』『マエストロ』など代表作多数。

#### 下村 富美

講師／マンガ家。代表作「仏師」「首」のほか、小説挿絵に「安倍晴明」（谷恒生）、「穢土」（樹川さとみ）、「鬼族狩り」（霧島ケイ）など多数。独特の世界観に定評がある。  
にし の 公平  
助教授／マンガ家。アメリカやイタリヤなど、海外のマンガ雑誌でも連載。デジタルマンガも制作し、数々のマンガ賞を受賞している。

#### やまだ 繁

教授／マンガ家、エッセイスト、詩人。マンガ「性悪猫」「しんきり」「エッセイ」どうぞお勝手に、CD-ROM はか作品多数。最新刊に「愛のかたち」。

#### 六田 登

客員教授／マンガ家。代表作にアニメ化された「ダッシュ 勝平」や、小学館漫画賞を受賞した「T.E.F.」。「ダヴィンチをマンガ化した」「ライオンは眠らない」など。

#### マンガプロデュース学科

「マンガプロデュースコース」  
岩見 吉朗  
講師／ペンネーム、久部緑郎。音楽雑誌の編集、フリーライターを経て、「ライオン発見伝」（作画・河合星）でマンガ原作者デビュー。同作はテレビ放映もされた。  
大西 祥平（2007年度就任予定）  
講師／マンガ原作・評論。コラム執筆、編集、自作制作出版運営など多岐に渡る活動を展開。マンガ原作では「監視正 大門寺さくら子」（画・高橋のぼる）など。

#### 高取 英

教授／編集者を経て劇作家に。86年に劇団「月蝕歌劇団」を旗揚げ。脚本、演出を手がけたら、マンガの批評も行。創作から評論まで幅広い著書多数。  
西田真二郎  
助教授／雑誌、新聞の記事構成、取材執筆、編集補助に長年携わる。著名コミック誌における連載コラムやマンガの作品企画、原案取材など、担当企画多数。  
林 律雄  
教授／74年マンガ原作者デビュー。大ヒット作「おやこ刑事」（画・大島やすい）、「超ロングセラー」「総務部総務課山口六平太」（画・高井研一郎）など著作多数。

#### 由利 耕一

客員教授／街談社社第七編集局長兼美術課課長「コミッククリエイター」常務取締役。編集者として数多くのコミック誌を手がけ、著名誌の編集長も歴任。

#### アニメーション学科

「アニメーションコース」  
明田川進（2008年度就任予定）  
教授／音響監督として長年の実績を持つ。映画「AKIRA」「リボンの騎士」「元祖天才オカホン」など代表作多数。プロデュース作品に「魔大戦」など。  
石堂 吉彌  
助教授／モデルアニメやCGなどのアナログとデジタルの特殊効果を融合した手法で多数のCMや番組タイトル、イベント映像などを手がける映像クリエイター。  
小川 博司  
教授／「クレヨンしんちゃん」ほか多数のテレビ・映画作品のキャラクターデザイン・総作画監督を担当。原画・作画監督では「ルパン三世」「めざらん」刻」など。

#### くすおかひろし

教授／「みんなのうた」のアニメディレクターほか、数多くの作画、演出ストーリーボードを手がける。著書にアニメ技法書「新・実践アニメーション」など。  
杉井 吉房  
教授／日本のアニメーション創始以来、芸術性の高い作品を作り続けている監督。「銀河鉄道之夜」が受賞作多数。現在、最新作「あらしのよるに」が大好評上映中。

#### 中田 実紀雄

教授／プロデュース作品に映画「ジャックと豆の木」「ごんぎつね」、テレビ「まんが日本昔ばなし」など多数。ビデオソフトやCD-ROMなども手がける。  
前田 庸生  
教授／日本のCGアニメの第一人者。アニメ制作で広く利用されるPCソフト「REIASI」の開発にも参加。CGディレクターとしても「メトロポリス」など多数。

#### 吉見 貴司

講師／映画評論家。映画雑誌の編集に従事するかわら同時代の映画評論を多数発表。映画人へのインタビューを通じて日本映画史の発展も試みてきた。  
富野 由悠孝  
客員教授／「機動戦士ガンダム」総監督。日本アニメ大賞最優秀作品賞など受賞多数。2005年も劇場版が公開された。作詞家、作家としても発表作多数。  
りんたろう  
客員教授／「銀河鉄道999」、劇場版「ジャングルの大帝」「宇宙海賊キャプテンハーロック」など、テレビや映画で多数の有名作品を発表し続けている監督。

#### 学科共通

杉本 パウエンス・ジェシカ  
助教授／ベルギー出身。日本語人類学、社会学修士。語学は英独仏日の五ヶ国語。主に外国における日本マンガ・アニメの受容について研究している。  
津堅 信之  
講師／アニメーション研究者。主要研究領域はアニメーション映画史メデア比較論。著書に「日本アニメーションの力」「アニメーション学入門」など。  
吉村 和真  
助教授／思想史・マンガ研究を専門とする。京都精華大学表現機構マンガ文化研究所研究員。日本マンガ学会理事。

#### 芸術学部からの異動教員

藤原ユキオ（教授／カートゥーン）、玉田京子（助教授／カートゥーン）、マーティン・ハネセット（教授／カートゥーン）、ヨシトミヤオ（教授／カートゥーン）、竹宮 恵子（教授／ストーリーマンガ）、牧野 圭一（教授／ストーリーマンガ）、小川 聡（講師／ストーリーマンガ）、橋田正史（教授／マンガプロデュース）、マツト・ソーン（助教授／マンガプロデュース）



### 新しい役員体制が固まる 片桐充氏が新理事長に決定

学校法人京都精華大学の理事および評議員の任期満了にともない、次期理事および評議員が選出された。任期は理事、評議員とも2005年12月25日から2008年12月24日まで。また、12月25日に開催された学園理事会で、学長でもある中尾ハジメ(本名・片桐充)氏が新しい理事長に決定した。1号理事と4号理事杉本貞彦理事は任期が異なる。なお、片桐充氏は学長任期の5月24日まで理事長と学長を兼任する。

#### 理事

- 1号理事 (京都精華大学学長)
- 中尾ハジメ(片桐充) (人文学部教授)
- 2号理事 (職員互選評議員理事)
- 小林陸一郎 (芸術学部教授)
- 赤坂博 (事務局職員)
- 3号理事 (職員互選評議員理事)
- 澤田昌人 (人文学部教授 副学長)
- 上々手良夫 (事務局職員)
- 4号理事 (学識経験者理事)
- 杉本貞彦 (宝酒造株式会社元代表取締役副社長)
- 佐藤茂雄 (京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長)
- 木村政雄 (木村政雄の事務所代表)
- 熊田泰彦 (京都銀行特別顧問)

#### 監事

- 崎間昌一郎 (弁護士)
- 中村善治 (株式会社京都鋼材社長)

京都精華大学創立当初からの職員で、長年理事を務められた杉本修一氏が、昨年12月に理事長を退任、3月末で大学を退職されることになりました。

### 理事長退任にあたって

前理事長 杉本修一



理事長を昨年の12月に退任しました。

大学時代の恩師で初代学長の岡本清一先生にお誘いを受けて、前身の京都精華短期大学にお世話になったのは、1968年9月のことでした。短期大学開学の年で、37年前のことです。誠に長い間、京都精華大学と関ってまいりましたが、多くの方々と出会い、様々な仕事をさせていただき、悔いのない時間であったと感謝しています。

退任にあたり過去を振り返ってみますと、様々なことが思い浮かびますが、ここでは大学が記憶に留めておくべきだと思う方々の中から、既に逝去されている方々の方についてほんの少し思い出を語ってみたいと思います。

まず当然のことながら岡本清一先生です。大学の初代学長で建学理念を起草された方です。ある時、本学の教員が大手の大学に転出することになった時、採用条件が助教授となっていました。本学では教授でしたので、岡本学長は先方の学長に「京都精華短期大学は、小なりと言えども一個の自立した大学である。そこが教授と判定したものを認めないとは何事か」と抗議されたのです。私どもは、岡本先生の教員を思う真情と大学創造の志の高さを感じたものでした。また岡本学長は、本当に学生にやさしい方

でした。私的な面においてだけではなく、公的にも大学社会から身分差別をなくして、学生を人間として尊重できるような仕組みを作られたのです。さらに「卒業生が自分の子供を入れたいと思うような大学にしなければいい大学とは言えません。」が先生の口癖でした。岡本先生は、多くの人たちに大学のことや教育のことやその他様々なことについて語っておられました。おそらく先生の言葉は、聞いた人の心の底にいつまでも残っていることだと思います。いつの日にかその人達が文章にして大学に残しておいてくれることを望んでいます。近々、情報館内に「岡本記念資料室(仮称)」ができる予定です。

次は同志社大学の学長(後に、理事長・総長)であった上野直蔵先生です。

先生が私学振興財団(当時)の常務理事をなさっていた時のことです。精華は財政状況が大変で給与の支払いも心配なところでした。とても財団から融資を受けられるような状態ではなかったのですが、先生は進退をかけて精華への融資を判断してくださいました。お陰で財政再建が可能となりました。今日の精華があるのは上野先生の力が大きく、いわば精華の恩人だといっても過言ではありません。

先生のお墓は、同志社に隣接している相国寺境内にあります。いつもお参りしても新しいお花がお供えしてあります。きっと先生に危機を救ってもらった大学が他にもたくさんあるのではないかと思います。

最後は3代目の学長であった深作光貞先生です。先生は、学長に就任されると直ちに頓挫していた廃校の中学校々舎(現・朽木学舎)の買収交渉に乗り出され、雪深い山寺で地元の方に酒

を注ぎながら決着をつけられたのです。小さなエピソードですが大学のために無償の情熱を傾けられるのを見て、この学長となら四年制大学設置のために苦勞を共にすることができると思ったものでした。厳しい法規制の中で、筆舌に尽くし難い苦勞を重ねて目的を達成することができました。

その後先生は、やむを得ず一度精華を離れることになりましたが、人文学部開設の時に再び帰ってこられました。そのことを知った卒業生は大変喜んだのですが、既に先生のお体は病におかされていたのです。先生の最期の時は、戻した卒業生でいっぱいでした。先生も精華の恩人です。

この他たくさんの方々のおかげで今日この精華があることを忘れてはならないと思います。私は、30年近く理事を仰せつかり、その内6年近くを専務理事として、最後の6年は理事長として、学園の経営にあたってまいりました。全て力及ぼしましたが、些かでも仕事ができたとすれば、上記の諸先生をはじめ緒先輩や同僚のお陰であることは言うまでもありません。心から感謝申し上げます。

またいろいろと苦しいときに、卒業生の顔が思い浮かび、気を引き締めたこともありました。母校が大好きな卒業生にも感謝したいと思います。余談ですが、私が理事長を退任したのは66歳の年の12月でしたが、岡本先生が学長を辞任されたのは、奇しくも同年齢の同月だったことを思いますと感慨深いものがあります。最後になりましたが、京都精華大学が志の高い大学として益々発展していきますことを願っています。まして退任の挨拶とします。ありがとうございました。

### 活躍する卒業生

森山さんが働く「寒灯舎」は、彼女を含めて4名の小さな編集プロダクションだ。入社して1年未満だが、記事の執筆から、資料や情報の収集、原稿依頼、写真撮影の立ち会い、特集の企画まで、さまざまな編集業務を行なっている。忙しい時期は不規則な生活になるが、本をつくる仕事は楽しく、やりがいを感じている。

本を読むことはずっと好きだった。特に大学時代は近代日本文学を片っ端から読んで、精華にいたころを振り返ると、とにかく多くの本を読んだこと、そして人との出会いにめぐまれたことが大きいという。友人や教員との出会いはもちろんだが、4年生のときに参加した文学の研究会で今の会社の社長と出会い、誘われたことが今の自分に繋がっているからだ。

森山さん本人が執筆するのは雑誌の記事が多い。雑誌の原稿で難しいのは、各雑誌のコンセプトに沿った内容を書くのは当然ながら、取材対象を悪く書くことはできないこと。褒めたり持ち上げたりするばかりの無批判な文章になりがちだ。「でも、雑誌の短い文章でもハッと何かを感じさせられることがありますよね。私自身の考えや問題意識をほんの少しに絞ることで、気づく人に何かを感じ取ってもらえたらいいと思う。そういう文章を書きたいです」。

また、人と接する機会が多い仕事なので、コミュニケーションの重要性と、それに対する自分自身の課題を感じている。例えば、記事の執筆をライターに依頼したり、専門家の原稿を本にする場合、どうすれば面白い記事や本になるかを考えつつ、時には著名で実績のある作者に書き直しをお願いすることもある。コミュニケーション力が問われる場面だ。今はとにかく、聴き取ることに重きを置いていきたい。

よく仕事を共にする出版社で実用書の単行本がシリーズ化することになったので、それに採用される企画を立てることが近い目標だ。彼女自身が以前から注目していた人に書いてもらい、出版させたい。

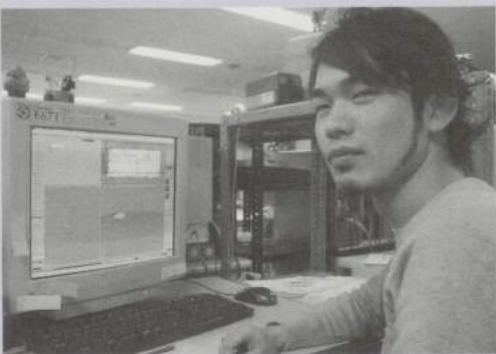
「また、編集がどういふものなのか分かっていないので手探りですが、この仕事は色々なことに興味をもつことが大切だと感じています。とにかく全手このことに一所懸命取り組んで、取材交渉から執筆まできちんとしていけるようになりたいです」。



森山めぐみさん 人文学部人文学科卒業(201L273)  
編集プロダクション 寒灯舎 勤務

### 活躍する卒業生

渡辺俊介さん  
芸術学部デザイン学科映像専攻卒業(201E031)  
アニメーション制作会社 STUDIO4°C CG部勤務



STUDIO4°C <http://www.studio4c.co.jp>

して作ることができるので、やりがいがあります」。

いま渡辺さんが参加しているのはSTUDIO4°Cが制作する新作劇場版アニメーションだ。「この作品では『XSI』という3DCGソフトを使っています。作品ごとにその作品に適したソフトを使うため、作業を進めながら覚える場合もあります。技術的な面ももちろん必要ですが、見ている人に面白いと思わせる映像を作るには、やはりセンスが必要。多くの映像を観ることももちろん、映像的な表現以外にも興味をもたないと面白いものは作れないと思っています」。

また、心がけていることは、技術やセンスを磨く以外にもある。「ひとつの作品に参加するスタッフ全員が、同じような完成形を思い描きながら作業しているかどうか作品の出来に関わって欲しいと思います。まず、自分自身がしっかりと監督、演出、CGI監督からの指示を理解した上で、担当した部分を納めることができるまで作り上げたいと思っています」。

「大学時代から共同制作の形で映像を作ってきました。仕事となった今でも共同作業でしか生まれないアイデアやクリエイティ、そして完成した時の満足感というものがこの仕事を続けて行く理由になっています。また、2Dと3Dを絡めたアニメの手法を使って表現する映像の魅力に大きな可能性を感じています」渡辺さんの現在の目標は、CGI監督として作品に参加すること。近い将来、その目標がかなった渡辺さんの作品を、ぜひ観てみたいと思う。

### 活躍する卒業生

## 海外芸術系大学との協定

京都精華大学は新たに3つの海外の大学と交換留学協定を結ぶことを決定しました。

クラフティックデザインの評価が高いことで有名なオランダのリートフェルト・アカデミー、ヨーロッパ最高水準と規模を誇るユトレヒト芸術大学、そして現代芸術の街として有名なドイツのカッセル市にあるカッセル芸術大学の3校です。これら海外協定校は全部で18校となり、これらからも世界的にトップクラスのデザイン・芸術系の大学と、積極的に教員、学生間の交流を行っていきます。

## 2005年度

### 芸術学部卒業・修了制作展

芸術学部と芸術研究科による卒業・修了制作展を、京都市左京区の岡崎公園内にある京都市美術館にて開催いたします。学生たちが、学びの集大成である作品を発表いたします。ぜひお立ち寄りください。



第36回 京都精華大学 卒業・修了制作展'05

会期：2月1日（水）

～2月5日（日）

会場：京都市美術館本

館（市バス「京

都会館美術館前」

下車すぐ、地下

鉄東西線「東山

駅下車徒歩10分

## 卒業式・入学式のご案内

2005年度卒業式、2006年度入学式を左のとおり予定しております。

2005年度学位記授与式

日時：2006年3月21日（火・春分の日）

開式10時

場所：本学体育館

※地下鉄国際会館駅よりスクールバスを運行いたします。お車でのご来場はご遠慮ください。

2006年度入学式

日時：2006年4月1日（土）

開場9時／開式10時30分

場所：国立京都国際会館メインホール  
※地下鉄国際会館駅すぐ。お車でのご来場はご遠慮ください。

### 施設整備および教育研究事業充実に関する募金についてお願い

施設の充実、教育・研究の発展にかかる経費のご寄付ご協力をお願いいたします。寄付金は一口5万円からとなっております。詳細につきましては「募金要項」をお取り寄せください。この寄付金につきましては、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けていますので、所得から税金控除を受けることができます。詳細のお問合せや募金要項のお取り寄せは、京都精華大学企画室（075-702-5201）までお願いいたします。

## 2006年度入試日程

### 人文学部

| 一般入試 | 出願               | 試験                               | 方式                     | 会場                               |
|------|------------------|----------------------------------|------------------------|----------------------------------|
| 一般1期 | 1月6日（金）～1月24日（火） | 1月28日（土）<br>1月29日（日）<br>1月30日（月） | 小論文／基礎能力型<br>2科目型／3科目型 | 京都精華大学<br>東京・大阪・広島<br>(30日は大学のみ) |
| 一般2期 | 2月17日（金）～3月1日（水） | 3月5日（日）<br>3月6日（月）               | 英・国                    | 京都精華大学                           |

### AO入試

### ゼミ日程

|          |                                 |
|----------|---------------------------------|
| オープンゼミ方式 | 1月15日（日）、2月5日（日）                |
| 集中ゼミ方式   | 1月21日（土）～23日（月）、2月25日（土）～27日（月） |

### 芸術学部・デザイン学部・マンガ学部

芸術・デザイン・マンガ学部の試験は各コース単位での実施となります。試験時間、試験内容はコースによって異なります。

| 試験種別 | 出願                | 試験                            | 会場                                |
|------|-------------------|-------------------------------|-----------------------------------|
| 一般1期 | 1月6日（金）～1月24日（火）  | 2月3日（金）<br>2月4日（土）<br>2月5日（日） | 京都精華大学・東京<br>(東京会場は午後のみ)          |
| 一般2期 | 2月14日（火）～2月25日（土） | 3月5日（日）<br>3月6日（月）            | 京都精華大学・東京<br>(東京会場はビジュアルデザイン学科のみ) |